

# 北部機械金属業界の景況動向

(2009年4～6月実績/2009年7～9月見通し)

○ 調査対象：舞鶴市以北3市2町の機械金属関係企業125社 【調査時点 平成21年6月下旬】

○ 回答数：83社（内訳は以下のとおり）

① 市町別 = 舞鶴市 17、宮津市・与謝2町 15、京丹後市 51

② 業種別 = 一般機械 38、電気機械 6、輸送機械 13、精密機械 12、その他 14

(区分) 一般機械…工作機械、産業機械部品等

電気機械…家電部品、電子部品等

輸送機械…自動車部品、船舶等

精密機械…半導体・液晶関連、精密機械部品等

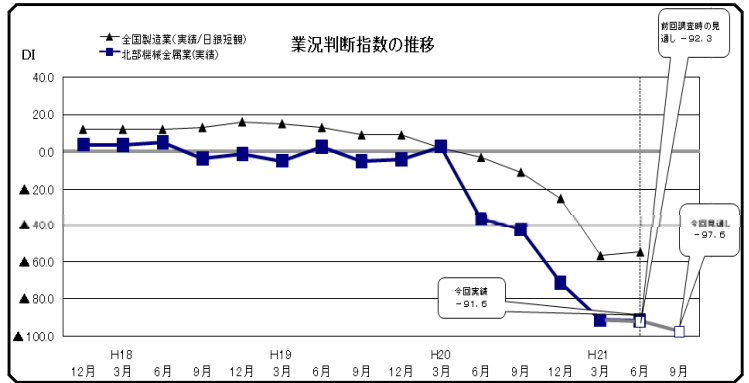
③ 従業員数別 = 10人未満 33、10～50人未満 34、50人以上 11、不明 5

※アンケート調査の他に一部企業の訪問調査を実施 【調査機関：財団法人京都産業21北部支援センター】

## － 調査結果 －

### 1 景況動向判断

- 4～6月実績のDI（業況判断指数）は、-91.6と、過去最低値となった前回調査（1～3月分。以下「前回」という）の-91.3を更に0.3ポイント下回る結果となった。また、全業種で、「非常に良い」あるいは「良い」と回答した企業は皆無であった。地域別では、舞鶴市域-76.5（前回-62.5）、宮津市・与謝2町域-100.0（同-100.0）、京丹後市域-94.1（同-98.0）と、依然として北部の全地域で非常に厳しい状況が続いている。注：DI = (非常に良い+良い) - (非常に悪い+悪い)



- 業種別に見ると、その他が-78.6（同-82.3）と-70台となったが、輸送-100.0（同-100.0）、電気-100.0（同-85.7）、精密-91.7（同-84.6）、一般-92.1（同-96.8）の4業種では-90を下回っている。
- 7～9月見通しのDIは、前回（4～6月見通し）-92.3より更に5.3ポイント悪化して-97.6となり、一段と厳しい見方となった。業種別でも、電気、輸送、精密で-100.0を見込むなど、全業種で-90を下回り一層の悪化が見込まれている。国内では一部の大企業製造業等で景況感の持ち直しが出てきたとの見方もあるが、北部地域ではまだまだ景気回復の実感に乏しく、底打ち感は全く感じられない。

| 業種  | 非常に良い | 良い   | 普通   | 悪い | 非常に悪い |
|-----|-------|------|------|----|-------|
| 全体  | 8.4   | 26.5 |      |    | 65.1  |
| 一般  | 7.9   | 23.7 |      |    | 68.4  |
| 電気  |       |      | 66.7 |    | 33.3  |
| 輸送  |       | 23.1 |      |    | 76.9  |
| 精密  | 8.3   | 16.7 |      |    | 75.0  |
| その他 | 21.4  | 28.6 |      |    | 50.0  |

| 業種  | 非常に良い | 良い   | 普通 | 悪い | 非常に悪い |
|-----|-------|------|----|----|-------|
| 全体  | 2.4   | 41.5 |    |    | 56.1  |
| 一般  | 2.6   | 39.5 |    |    | 57.9  |
| 電気  |       | 60.0 |    |    | 40.0  |
| 輸送  |       | 30.8 |    |    | 69.2  |
| 精密  |       | 33.3 |    |    | 66.7  |
| その他 | 7.2   | 57.1 |    |    | 35.7  |

### 2 採算状況

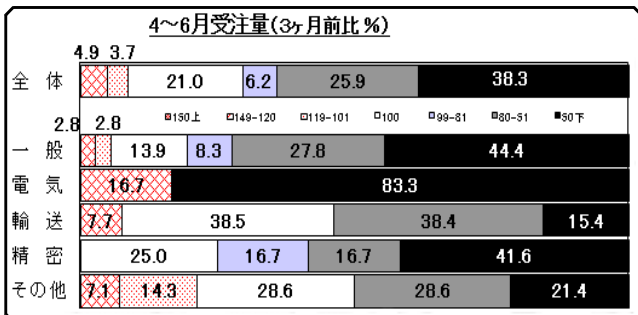
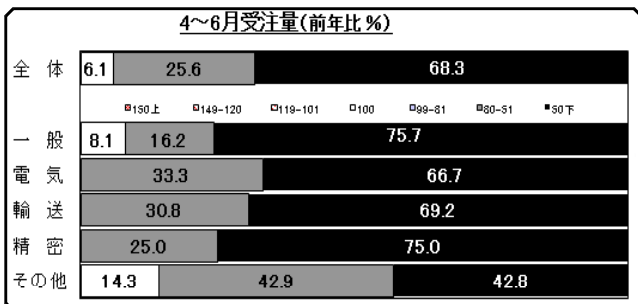
- 採算状況は、黒字と答えた企業が皆無（前回3.8%）である一方、赤字とする企業は83.1%（同79.5%）と8割を超える状況となっており、企業経営は依然として苦境が続いている。
- 業種別の赤字割合は、輸送76.9%（同91.7%）とその他57.1%（同70.6%）を除き、一般、電気、精密で8割以上となっている。特に電気では、回答した全企業が赤字とし、採算状況は極めて厳しい。7～9月の見通しにおいても全業種が一層の悪化を見込むなど、今後財務状況の更なる悪化が懸念される。

| 業種  | 黒字   | トントン | 赤字    |
|-----|------|------|-------|
| 全体  | 16.9 |      | 83.1  |
| 一般  | 10.5 |      | 89.5  |
| 電気  |      |      | 100.0 |
| 輸送  | 23.1 |      | 76.9  |
| 精密  | 8.3  |      | 91.7  |
| その他 | 42.9 |      | 57.1  |

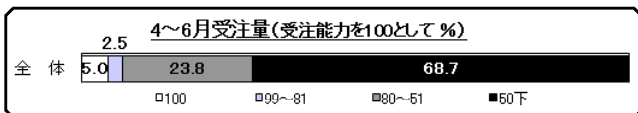
### 3 受注量

●4～6月受注量の前年比は、前年同期を何とか確保した企業は6.1%（前回6.3%）にすぎず、前年に続き9割以上の企業で受注量が減少しており、約7割が前年比50%以下の受注量となっている。特に電気・輸送・精密では100%以上とした企業はない。

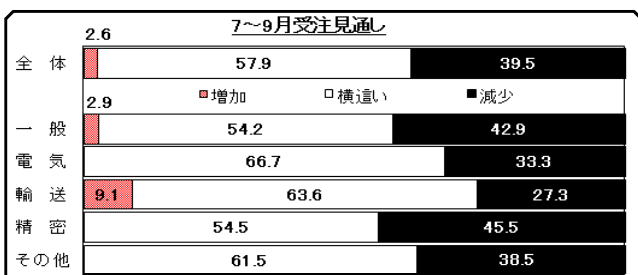
3箇月前比較では前期以上を確保した企業は、29.6%となり前回10.3%からは増加した。100%以上の受注（前回3業種）を確保した企業が全業種で見られるが、前回調査の低水準との比較のため、本格的な受注回復とは言い難い。



●受注能力を100とした4～6月受注量は、100（満杯）とした企業は、5.0%（前回2.7%）しかなく、50%以下とした企業の割合は68.7%（同57.3%）と悪化し、業種別では、一般・その他を除き、電気・輸送・精密で稼働割合が8割以下となっている。

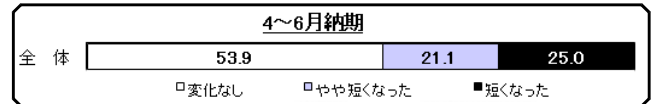
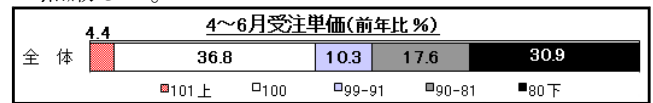


●7～9月受注見通しは、増加を見込む企業は2.6%（前回4.1%）、減少を見込む企業は39.5%（同57.5%）となった。約6割が横這い見通しだが、低水準のままである。



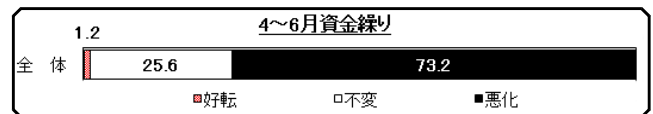
### 4 受注条件（受注単価／納期）

●受注条件は、納期の短縮は46.1%（同57.3%）とやや改善が見られるものの、受注単価の下落は58.8%（前回56.7%）とやや悪化し、受注条件は依然厳しい。



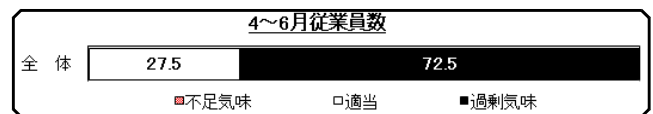
### 5 資金繰り

●資金繰りは、好転が1.2%（前回1.3%）、悪化は73.2%（同76.6%）と、ほぼ横這いで推移している。



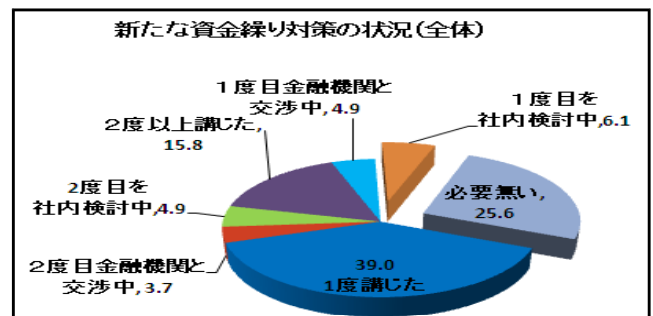
### 6 従業員数

●従業員数は、不足気味が0%、過剰気味が72.5%で、業種別では電気・輸送・精密で8割以上が過剰気味としている。



### 7 新たな資金繰り対策の状況

●1度目・2度目金融機関と交渉中又は1度・2度以上対策を講じた、2度目社内検討中とする企業は68.3%、1度目社内検討中6.1%、必要なし25.6%となった。また、金融機関と何らかの対策を講じた企業のうち約8割が、金融機関の対応にまあまあ満足又は十分満足としている一方で、約2割の企業では不満又は全く不満としている。



### 8 設備投資

●設備投資は、実施中又は計画中とする企業は10.3%（前回12.3%）で、業種別では、一般・精密・その他で9割以上が計画なしとしている。

